



《100年の定点観測 前橋・太田写真館》、2012-16年、インクジェット・プリント(3点1組)、各76.0×61.0cm、作者蔵
 (左:1914(大正3)年、秋原朔太郎と妹ユキ、太田清吉(前橋・太田写真館)撮影/中:2012(平成24)年、朔太郎の孫
 秋原朔美と朔太郎の妹ユキの孫三浦柳、太田清吉の孫太田康一(前橋・太田写真館)撮影/右:2016(平成28)年、
 朔太郎のひ孫萩原友と朔太郎の妹ユキのひ孫三浦ももこ、太田清吉のひ孫太田奈々絵(前橋・太田写真館)撮影)

ミュージアム コレクションⅢ Museum Collection Ⅲ

それぞれのふたり

Two Artists' Works Series: Hagiwara Sakumi and Enomoto Ryoichi

萩原朔美と榎本了吉

2022.12.3 sat - 2023.4.9 sun

開館時間 午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)



世田谷美術館
SETAGAYA ART MUSEUM

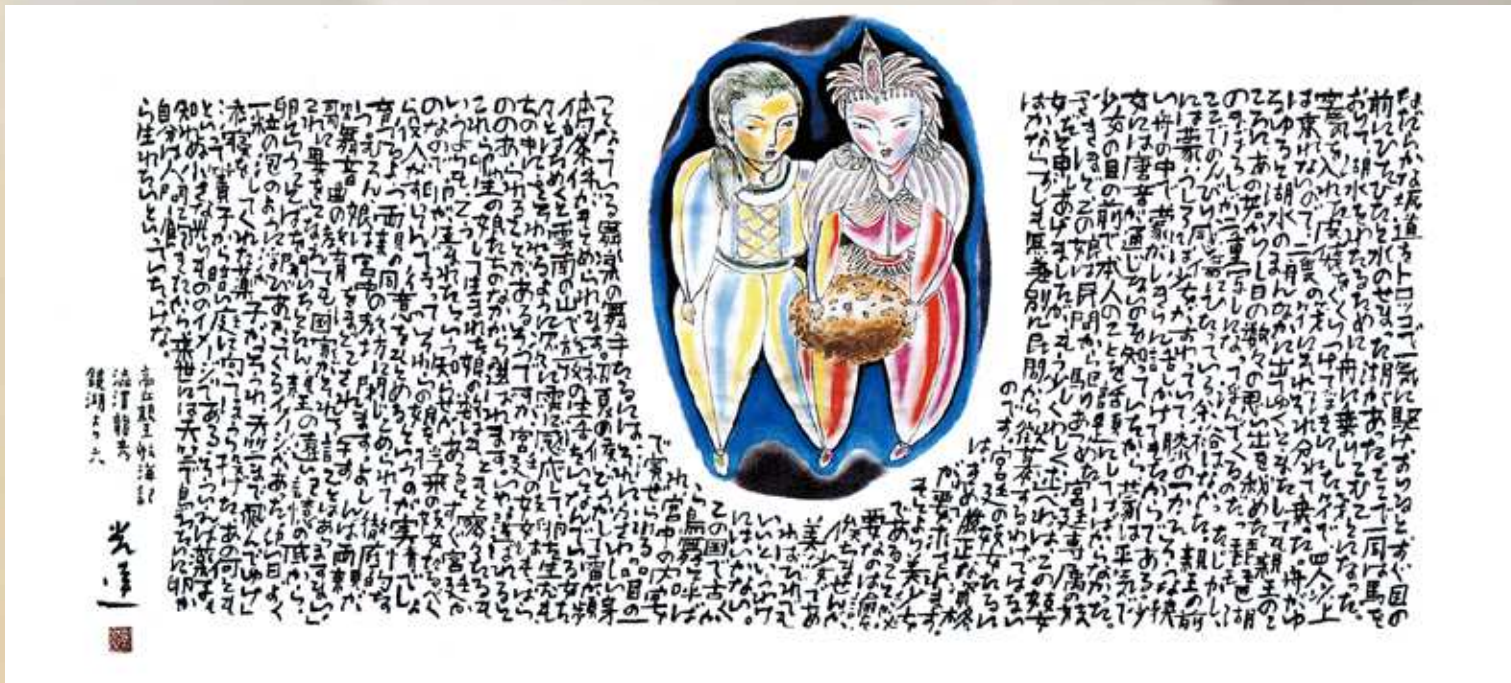
休館日 毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌平日休館)、
12月29日(木)ー1月3日(火) *1月9日(月・祝)は開館、1月10日(火)は休館

観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上/中小生100円(80円)

*障害者の方は100円(80円)。ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。証明書を
ご提示のうえ、お申し出ください。*()内は20名以上の団体料金*世田谷区内在住・在学の小・中学生は土、日、祝・休日は無料

◎小コーナー 奈良原一高 スター・レクイエム・シブサハ 溢澤龍彦の関連として、奈良原一高の写真8点をご紹介します。

《『高丘親王航海記』書写》、2012-15年、和紙・墨・アクリル絵具、70.0×130.0cm、世田谷美術館寄託(全84枚のうちの1枚)





紙上対談・展覧会前口上

「ビックリハウス」という紙の家を建ててたんで

H=萩原朔美 E=榎本了吉

H 最初に会ったのは、渋谷の並木橋に出来た「天井桟敷館」だった。寺山(修司)さんが「詩を書いている榎本くん」って紹介してくれた。栗津(潔)さんの手伝いで桟敷館の内・外装をデザインしていた武蔵美の学生の一人だったけど、寺山さんは詩を書く子に特に興味があったのね。

E 1969年だね、イラストも結構描いていたよ。「これが萩原朔美か！」って、美少年ぶりに衝撃を受けた(笑)。桟敷館の柿落としが『時代はサーカスの象に乗って』で、朔美さんは演出と役者をやっていたし。

H 再々演ぐらいやったかな、連日だからね。

E それにあなたが「家族商会活動所」という訳のわからない映像製作集団を作って(笑)、みんな個人映画を作るようになってしまった。朔美さんの家(世田谷区梅丘)が「梅スタ」という製作スタジオにもなっていくわけね。

H その前に天井桟敷に休団届を出してさ、山崎博と3人で、代官山のマンションを借りて共同事務所を作ったね。かわなか(のぶひろ)さんや(安藤)紘平さんが年中遊びに来て、結局それが『月刊ビックリハウス』誕生のきっかけになる。最初はアートの雑誌を作ろうと、その頃(1974年)出版事業を始めていたパルコに企画をもっていくと、「タウン誌を作らないか」と、当時専務だった増田(通二)さんから逆指名されるのね。

E 最初は苦戦の連続、ヤケクソになって当世人気の『an an』のパロディで「wan wan」という犬特集(1975年11月号)をやった。それが評判になって、パロディと読者参加というラインが決まったのね。土俵際のうっちゃりみたいな辛勝からのスタート。

H 結局11年間130号で、後半は18万部以上を刷っていたから、ビックリだね(笑)。

E それでも突然終刊してしまう(笑)。ミステリーだね。2、3人で始めた会社(エンジンルーム)も、社員が30人にもなっていて、仕事を分配して解散してしまった。それからだね。

H それからだね、その頃はもう、東野(芳明)さんにひっぱられて、多摩美で先生やっていたけど、自分と向き合うようになったかな。表現とか、クリエーションというのと。

E 私は2000年代になってからだね。京都造形(現・京都芸術大学)の先生になって、少しずつ自分に向かい合うようになる。それとやっぱり俳句かな。隔月で『かいぶつ句集』を出すから、俳句や文章を書くし、絵と書の個展を毎年するようになる。それが結局、澁澤龍彦さんの『高丘親王航海記』の書写、繪巻のシリーズ制作に繋がっていく。朔美さんは、もともとコレクター的な資質があったから、映像を作りながら定点観測が過激化していく。

H やっぱりケータイかな。カメラを下げて歩くのはちょっと、だけど、スマホだといのよ。力まないというか、ノリが軽い。それに最近のは画像のクオリティもいい。

E そうね、赤瀬川(原平)さんたちの「路上観察」とは少し違うね。あちらは変な「トマソン」探しだけど、そういった目標もない。対象に淡々としているんだよね。「歩く考現学」だね。もう地球一周はしてるんじゃない?

H それはないでしょ。今回は私のほとんどの作品がコレクションされたけど、エノモッチャんは「高丘親王」が全部。

E ほぼ全部。笠井叡さんの迷宮ダンス『高丘親王航海記』(2019年)は、美術や衣装もやったので、その画像も入っている。それに今回は、トークショウも計画していて、いろんな人に出てきてもらおうと思っています。楽しみに! それにしても、朔美さんの仕事はしつこいですね。

H それはあなたもでしょ!

E じゃあ今回は、二人のしつこさ比べということで。

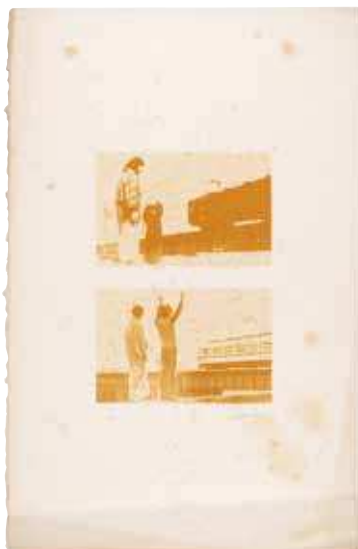
H そうか、カァッ! カァッ! カァッ! (笑)

萩原朔美

(1946-) 母は小説家・萩原葉子。祖父は詩人・萩原朔太郎。寺山修司の「演劇実験室・天井桟敷」で俳優・演出家を務める。一貫して、「定点観測」をテーマに、映像、版画、写真、アーティストブックなどを手掛ける。『ビックリハウス』を榎本と創刊し、初代編集長を務めた。スマートフォンの登場が制作に拍車をかける。

榎本了吉

(1947-) 武蔵野美術大学造形学部商業デザイン科を卒業。栗津潔に師事し、寺山修司の劇映画「書を捨てよ町へ出よう」では美術を担当。『ビックリハウス』を萩原と創刊。博覧会や展示会、文化イベントのプロデューサーとして活躍。近年は澁澤龍彦の小説『高丘親王航海記』をもとにした書写・繪巻・図絵を制作。



萩原朔美 ②『小田急線にバンザイする私』、1974年、紙・シルクスクリーン、49.8×32.6cm、世田谷美術館蔵

③『名刺 萩原朔美』、1999年、名刺・製本、5.6×9.1×1.5cm、世田谷美術館蔵

榎本了吉 ①『高丘親王航海記』繪巻、2015-16年、紙・アクリル絵具、152.5×994.5cm、世田谷美術館寄託

④『高丘親王航海記』圖繪、2016年、紙・墨・アクリル絵具、85.0×105.0cm、世田谷美術館寄託(全7枚のうちの1枚)

関連イベント トーク/映像/ライブ 「もう、アートの祭りだ!」

萩原朔美、榎本了吉の両氏が毎回多彩なゲストをお招きして繰り広げるアートの祭典。内容および詳細は未定です。チケットの購入方法も含めて、決まり次第、世田谷美術館ウェブサイトにてお知らせいたします。

会場：世田谷美術館講堂

定員：各回70人

日時：2023年2月4日(土)・11日(土・祝)・18日(土)・25日(土)、4月8日(土)・9日(日)を予定。

開演時間：各15時~17時(開場は開演の30分前)

料金：各2200円(「萩原朔美と榎本了吉」展入場券を含む) 販売開始は2023年1月を予定。

主催：アタマトテ・インターナショナル、世田谷美術館

お問い合わせ：世田谷美術館 電話03-3415-6011(代)

同時開催企画展 (1階展示室)	● 折り・藤原新也 ● 世田谷美術館コレクション選 わたしたちは生きてる! セタビの森の動物たち	2022年11月26日(土) - 2023年1月29日(日) 2023年2月18日(土) - 4月9日(日)
--------------------	---	---

世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL.03-3415-6011(代表)
https://www.setagayaartmuseum.or.jp/
展覧会のご案内 050-5541-8600(ハローダイヤル)

交通案内

- 東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、もしくは美術館バスA「美術館」下車徒歩3分
- 小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅バスB「砧町」下車徒歩10分
- 小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅バスC「美術館入口」下車徒歩5分
- 来館者専用駐車場(60台、無料)：東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分。

※新型コロナウイルス感染症の感染予防および拡散抑制のため、ご入館に際し、マスクの着用と検温等のご協力をお願いしております。※展覧会の会期および内容が、急変変更や中止になる場合がございます。※会期中の最新情報は美術館ウェブサイト等でお知らせします。

